

2 漢字とことば②

■ ことわざ

★ことわざの意味を知り、正しく使えるようにしましょう。

《ことわざ》

おかしから言いならわされてきた言葉で、生活に役立つ知恵や教訓にあふれた表現のこと。

例 ぶたに真珠

しんじゅ

↓ぶたに真珠を与えても、価値がわからないので喜ばないことから、「どんなに価値のあるものでも、その価値がわからない者には意味がない」ということを表します。

例 さるも木から落ちる

↓木のぼりが得意なさるでも、油断していると木から落ちてしまうこともあるということから、「油断していると失敗する」ということを表します。

★意味の似ていることわざを確認しましょう。

・ぶたに真珠 〓ねこに小判

〓馬の耳に念仏

・さるも木から落ちる 〓かっぱの川流れ

★反対の意味のことわざを確認しましょう。

〓弘法にも筆のあやまり こうぼう

・急がば回れ 〓せいては事を仕損じる しそん

・ぬかにくぎ 〓のれんに腕おし うで

〓豆腐にかすがい とうふ

・弱り目にたたり目 〓泣きつつらにはち

・ちようちんにつりがね 〓月とすっぽん

・三つ子のたましい百まで

〓すずめ百までおどり忘れず

・立つ鳥あとをにごさず 〓あとは野となれ山となれ

・うりのつるに茄子はならぬ なすび 〓とんびがたかを産む

・まかぬ種は生えぬ 〓たなからぼたもち

・渡る世間に鬼はなし おに 〓人を見たらどろぼうと思え わた

■ 送り仮名

★送り仮名によって、漢字の読み方が変わるもの

- ① 苦 ↓ 苦い (にがーい)
- ↓ 苦しい (くるーしい)
- ② 細 ↓ 細かい (ほそーい)
- ↓ 細かい (こまーかい)
- ③ 冷 ↓ 冷たい (つめーたい)
- ↓ 冷える (ひーえる)
- ↓ 冷める (さーめる)
- ② 生 ↓ 生きる (いーきる)
- ↓ 生まれる (うーまれる)
- ↓ 生える (はーえる)

★送り仮名をまちがえやすい漢字

- ・はなす ↓ 話す
- ・たより ↓ 便り
- ・うしろ ↓ 後ろ
- ・新しい ↓ 新しい
- ・悲しい ↓ 悲しい
- ・みじかい ↓ 短い
- ・あかるい ↓ 明るい
- ・おそわる ↓ 教わる
- ・いそぐ ↓ 急ぐ
- ・むかう ↓ 向かう

★送り仮名をつけない漢字

- | | |
|-----------|-----------|
| 消印 (けしいん) | 試合 (しあい) |
| 場合 (ばあい) | 番組 (ばんぐみ) |
| 立場 (たちば) | 建物 (たてもの) |
| 役割 (やくわり) | 夕立 (ゆうだち) |

■ 言葉の使い分け

★「の」の使い方★

① 主語を示す

・「くが」と言いかえることができる。

例 父の作曲した歌を演奏する。
えんそう

↓「父が作曲した歌を演奏する。」と言いかえられる。

② 名詞の代わりになる

・「くこと」「く(の)もの」などと言いかえられる。

例 赤いのがほしいのです。

↓「赤いものがほしいのです。」と言いかえられる。

例 わたしは働くのが好きです。

↓「わたしは働くのが好きです。」と言いかえることができる。

③ 名詞を修飾する

・前の名詞とひとまとまりになって、あとの名詞を修飾する。

例 花子さんの家はどこですか。

↓ 前の名詞「花子さん」とひとまとまりになって、
あとの名詞「家」を修飾している。

④ 文末をやわらげる

・ 文末について、文末表現をやわらげたり、やさしくたずねたりする。

例 父は貿易会社で働いているの。

↓ 「働いている」という表現を和らげている。

例 あしたはどこに行くの。

↓ 「どこに行くか」という疑問の意味をやさしく表現している。

★「さえ」の使い方★

① 例示推量

・ 程度の軽いものを例にあげて、もっと重いものを想像させる。

例 本を開こうとさえしない。

② 限定

・ 「くだけ」という意味を表す。

例 飯さえあればいい。

③ 添加 てんか

・ 「そのうえくまでも」という意味を表す。

例 風ばかりか雨さえふり出した。

★「こそ」の使い方★

・ 意味を強める

例 こんどこそ負けないぞ。

★「ばかり」の使い方★

① 限定

・ 「くだけ」という意味を表す。

例 かれにばかり話しかける。

② 程度

・ 「くくらい」「くほど」という意味を表す。

例 三日ばかり待ってください。

③ 動作の直後

・ 「くしてすぐ」という意味を表す。

例 目が覚めたばかりです。

③ 動作の直前

・ 「今にもくしそうだ」という意味を表す。

例 泣き出さんばかりにあやまる。

★「せる」「させる」の使い方★

・使役：「人に何かをさせる」という意味を表す。

例 花子をおつかいに行かせる。

先生が生徒にふえをふかせる。

コーチが田中君にボールを投げさせる。

■ 敬語

★敬語の種類★

《尊敬語》

動作をする相手の動作などに使って、相手をうやまう気持ちを表す。

例 ・「おくになる」「おくなさる」

・「くれる」「くられる」

・言う↓「おっしゃる」

・来る・行く↓「いらっしゃる」

・見る↓「ごらんになる」

・食べる↓「めしあがる」

《謙譲語》

自分や自分の側の人間の動作などに使って、自分がへりくだることで相手をうやまう気持ちを表す。

例 ・「おくする」「おくいたす」

・言う↓「申す」「申し上げる」

・来る・行く↓「まいる」「参上するさんじょう」

・見る↓「拝見するはいけん」

・やる↓「あげる」「さしあげる」

・会う↓「お目にかかる」

《丁寧語》

丁寧な言い方をすることで、相手をうやまう気持ちを表す。

例 ・「～です」「～ます」

・「お～」「ご～」

★まちがしやすい敬語★

例 お客さまが家にまいられた。

↓「まいる」は謙譲語なので、「お客さま」の動作に使うのはまちがいがい。「いらっしゃった」が正しい。

例 ぼくは先生におたずねになった。

↓「おくになる」は尊敬語なので、自分の動作に使うのはまちがいがい。「おたずねした」が正しい。